



京都薬科大学
KPUNews 編集委員会

KPUNews



何のこっちゃい、まるはだか。

～生まれ変わって10ヶ月の赤ちゃんです。たくましく育ちます！～

理事長 滝野 哲

皆様方には健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます、本学の教職員学生の皆様にとって良い年になります様祈っています。昨年、薬学6年制がスタートし早くも新春には2期生が入学します。薬剤師教育を通じて人の命と健康を守る為の実学として、教育し、研究を重ね、社会的責任を全うし、本学の発展に努めます。その為、中期事業計画の作成と実施が喫緊の課題であります。つきましては、新年度には皆さんに中期計画を提示する予定です。

【現況】

今や、大学が学生を選択するというより、学生が大学を選択するという時代となっています。それ故、改革の姿勢や、真剣な取り組みを社会に積極的にアピールして、本学の存在意義や使命についての理解を得なければなりません。

【社会的責任を果たすための課題】

本学は薬剤師としての「知」の集積拠点であり、薬学を通して健康と文化に奉仕しうる人材を育成することが基本的な使命であります。本学は時代や社会のニーズに応えられる教育研究を提供する組織であり、特色ある大学として存在意義が発揮されているか、改めて検証することが必要です。過去の慣習や既得権を重んずるあまり、必要な改善や改革を躊躇することは大学の発展を妨げます。次の時代を先導的に切り拓く大学の構築に向けて、大学構成員は各々の責務を自覚し、改革に傾注しなければなりません。特に私は理事長の職責として率先して経営面を革新し、教職員は法人と連帯して学生に質の高い教育を施し、広く医療を担う優れた薬剤師を育成する社会的責務があります。

CONTENTS

何のこっちゃい、まるはだか。

～生まれ変わって10ヶ月の赤ちゃんです。

たくましく育ちます！～

理事長 滝野 哲……………1～2

新年を迎えて……………学長 西野 武志……………2

滋賀医科大学と教育研究協力に関する包括協定締結……………3

2007年度医科大学臨床医学研修プログラムについて……………3

特集 学内企業セミナー……………4～8

ドイツ滞在記……………9～11

21世紀COEプログラム 中間評価……………12

受賞……………13～14

新聞記事紹介……………14～15

京薬祭を終えて……………15～16

クラブだより……………16

Library News……………17

2006年度後期試験日程……………18

教育後援会からのお知らせ……………18

教育後援会だより……………19

お知らせ……………20

京薬会だより……………20

【ガバナンスの確立】

平成17年4月から私立学校法の改正により、理事会については学校法人の最終的な意思決定機関として位置付けが明確となりました。従って、法人全体のビジョンを全教職員に明示し、経営革新を先導し、リーダーシップを発揮することが求められています。経営の透明性と情報公開、大学法人の現況を現実のものとして正確に認識し、教職員がより一層危機意識を共有できる体制の構築下に、改革を進めます。また、大学は社会に対して十分な説明責任を果たさなければなりません。

【教育の質の向上と学内の協力体制の確立】

大学のミッション「建学の精神」とビジョンを社会に示し、それに対する反応に真摯に耳を傾け、「教育は人なり」といわれる如く、品格ある優れた

教職員を確保しなければなりません。魅力ある教育の評価は、業界・学界、また、受験生からの評価に厳しく反映されます。教職員の教育研究内容の真の充実を図らなければ、志願者の増加や企業の理解を望むことは出来ません。当然のことながら、経営基盤の強化と教学の質の充実は車の両輪であり、これは学生に対し魅力的な教育を提供するための源泉と心得ています。

法人と教職員が一丸となり、教育研究の組織の在り方を謙虚に見直し、時代が要請する優れた人材の養成に寄与したいと思っています。

以上、新春に当り所感を申し上げ、ご協力をお願いすると共に、ご挨拶とします。



新年を迎えて

学長 西野 武志

明けましておめでとうございます。今年1年の新たな目標や抱負を抱かれ、希望に満ちた新年を迎えられたことと思います。

ところで、今年の干支は猪であります。諺に「猪突猛進；猪のように向こう見ずに突進すること」や「後先見ずの猪武者；猪のようにただ突進する武者にたとえて思慮分別のない人」があるように、猪年には色々な事件が起こっています。すなわち12年前の1995年には「オウム真理教信者による地下鉄サリン事件」が、1983年には「ソ連による大韓航空機撃墜事件や戸塚ヨットスクール事件」が、1971年には「自衛隊と全日空機衝突事件やインドとパキスタンの全面戦争」が、1959年には「キューバ革命が成功し、カストロ首相が誕生」などの事件が勃発しております。今年はこのような事件が起こらない事を切望しておりますが、学生の皆様には学業に全力投球して努力されることを期待しております。世界で最も努力した人として知られているヘレン・ケラーは「ヒトの病気はどんな病気でも、薬や科学の力で治すことができるが、無関心という恐ろしい病気を治す薬はない」と言っております。同じ講義を聞いても「興味を感じるヒト」と「興味を感じないヒト」が一定の割合で存在することが知られています。問題なのは「興味を感じないヒト」で、どんな学問でも努力して勉強すれば、必ず何らかの

得られるものがあるはずで、やはり関心を持ち、努力を継続することだと思います。自分が石ころのままで終わるのか、ダイヤモンドに化けることが出来るのかは、大学時代の勉強にかかっていることを今一度認識して頂きたいと思います。最後に老子の言葉

合抱之木、生於毫末、
九層之台、起於累土、
千里之行、始於足下

「合抱（ごうほう）の木も毫末（ごうまつ）より生じ、九層の台も累土（るいど）より起こり、千里の行も足下より始まる」をお贈りします。これらの言葉は、ひとかかえもある大木も小さい芽から生まれ、9層建ての高い建物ももとはひと盛りの土を積み上げた所から起工し、千里の遠い旅も第一歩から始まるを意味しており、まず目標を決めるあるいは与えられた環境で精一杯の努力をし、その努力を継続することが重要であることを示しています。

滋賀医科大学と教育研究協力に関する包括協定を締結

京都薬科大学と滋賀医科大学は、教育研究協力に関する包括協定を結びました。包括協定の調印式は2006年9月26日（火）、滋賀医科大学において執り行われました。

京都薬科大学と滋賀医科大学のこれまでの交流・連携の実績を踏まえ、今後、より豊かな社会の発展に向けて、医学及び薬学の教育、研究の分野において両大学がより交流・連携を深め、創出する成果により社会に貢献していくことを目標にしています。



京都薬科大学西野学長（写真右）と
滋賀医科大学吉川学長（写真左）



調印式の参加者

2007年度医科大学臨床医学研修プログラムについて

教授 太田俊作

最近、より良い医療を行う上で医薬連携の必要性が話題となり、各地で幾つかの試みが始められています。本学でも滋賀医科大学および京都府立医科大学との連携により、2007年4月より臨床薬学専攻修士課程2年次生の希望者に対して、両協定締結医科大学の臨床教室（医局）で6～9ヶ月間の臨床研修プログラムを実施することになりました。本プログラムは、医療の最前線での医師の考え方を知ることをはじめとして、臨床での様々な貴重な体験・研鑽を基盤として医療薬剤師としての資質を形成することにより、医療により高いレベルで貢献できる人材を育成することを主眼としています。研修内容は、医学部研究室、臨床教室（医局）において、治療計画、処方設計、カンファレンス、病棟診療活動の見学、手術見学、研究活動（共同研究を含む）、研修会、その他の業務など〔例えば、医局が関与する医療チームに参加（または見学）、治験データの集計、医療機器の勉強、学位論文発表会への出席、etc.〕の幾つかに参加（または見学）して、総合的に研修しますが、研修メニューは研修者が医局主任と相談して決めることを基本とします。

両医科大学の医局では、本学院生の積極的な研修参加が大いに期待されており、2007年度は滋賀医科大学で4名、京都府立医科大学で1名のM2生が研修予定です。また、2007年度臨床薬学専攻入学生に対して

は、2007年8月頃本プログラムのガイダンスを行う予定です。多数の院生の応募が期待されます。なお、従来から実施してきた両医科大学薬剤部における長期研修のうち、6ヶ月を越える部分については本プログラムに含まれることになりました。

研修プログラムスケジュール

年	月	項目
2006	9月22日（金）	臨床薬学専攻M1年次生に臨床医学研修ガイダンス
	9月29日（金）	研修希望者は志望届をこの日までに教務課に提出
	10月30日（月）	両医科大学に希望者名簿を提示
	10月中旬～11月中旬	必要ならば、受入可能臨床教室で研修希望者の面接実施
	12月上旬	医科大学から受入研究室決定を本学に通知
2007	12月中旬	研修希望者、所属研究室に決定通知
	1～3月	研修者、教室主任が研修先研究室、薬剤部を訪問・打合せ
	4月上旬	研修開始（1日）
2008	4月中旬	研修開始
	1月下旬	研修実施希望者の研修先配属先書（様式未定）を本学に提出
	2月中旬	修士学位授与申請 （研修者報告書提出 → 修士論文に代える）
	9月下旬	修士学位授与式（卒業式）又は臨床医学研修発表会

- ・研修状況の悪いものは、研修を中止、退学させる。
- ・本研修は単位的には臨床薬学課程研究（7単位）を抵替えるものとする。
- ・本研修の窓口：本学では教務課、医科大学では病院長。
- ・研修者の自己負担は、概ねM1時の病院実習研修に同じ。

2007年度研修生受入教室名

医科大学名	臨床教室名
京都府立医科大学	本庄教授研究室（女性生涯医科学）
滋賀医科大学	藤山教授研究室（消化器・血液内科）
	藤野助教授研究室（呼吸器外科学）
	竹内教授研究室（小児科学）
	山路教授研究室（薬剤部）

今年度本学では就職希望者と企業との出会いの場を広範かつ網羅的に提供し、就職活動への意識を高めてもらおうと学内企業セミナーを開催した。最近、各地で大学が共同で行っている合同入試説明会のように企業が大学へ出向いてそれぞれの事業内容や採用条件などを説明するセミナー形式の催しだ。昨年度からすでに始めていた催しだが、好評につき大学院生にも対象を広げて開催した。普通は就職希望先へ出向くというのが一般的な就職活動だが、多くの製薬会社、医療品卸売業、薬局などの企業、事業所の担当者を本学に招きお互いが気軽に直接面談することで、学生にとって限られた時間の中でより多くの企業をより効率的に知ることができ、企業側も一部の関心を持つ学生だけでなく、より多くの学生に自社を紹介でき優れた人材の確保が見込める求人求職活動だ。本学でも始まった効率的な就職支援活動を紹介したい。

— 開催の経緯 —

これまでは、薬剤師の資格があれば、就職先に困ることはありませんでした。

しかし、今後は、以下の要因から、薬剤師の就職環境も厳しくなることが予想されます。

①薬剤師の供給過多

これまでも2011年には薬剤師の需給バランスが、供給過多になるといわれていました。今年度中には、薬剤師の需要は飽和状態になるという最新の試算も出ています。

②競争の激化

薬科大学・薬学部の新設が続いており、来年度には72大学・学部になります。入学者数は、年間13000人を超える状況です。

一方で、求人は、これまでと同様に推移すると思われますので、大学間の競争は激しくなることが予想されます。

③求人の減少

これまで、大量に薬剤師を採用してきた保険薬局、ドラッグストアの求人が大幅に減る可能性があります。

平成17年度の処方箋受取率は、全国で54.1%です。医薬分業達成の目安は、75%といわれており、一部の県では既に70%を超えています。今後、順調に分業が進めば、近い将来、保険薬局の求人は頭打ちになるでしょう。

また、医薬品販売制度が見直され、一般用医薬品に第一類から第三類の販売区分が設けられました。第一類は、販売にあたり薬剤師の介在が必要ですが、第二類、三類については、薬剤師ではなくても販売することが可能になります。ドラッグストア等では、第一類類の薬を販売し

ない（薬剤師を必要としない）店舗が増える可能性もあります。

本学の就職率としては、あまり高くありませんが、求人が絞られれば、他大学との関係で影響が出るでしょう。

このような状況の中、よりきめ細かな進路支援策の必要性を感じ、学生と企業の出会いの機会を増やすため、昨年度から学内企業セミナーを始めました。

— 企業セミナーの概要 —

出展企業は、過去の採用実績等を勘案して選定しています。一部企業については、先方の都合により、出展されないこともあります。企業セミナーに出展している企業がすべてではありません。各自積極的に、企業情報を収集してください。

学内企業セミナーの目的は、多くの業種・企業の話を聴き、進路決定のための判断基準を身につけることです。

その目的を達成できるよう

- ①カタログ的に全出展企業が見られるよう一会場で開催する
- ②業種間の比較ができるよう、業種を分けずに開催する
- ③企業ごとの特徴をより理解しやすくするため、ブース形式する

をコンセプトに、第一回の企業セミナーを開催しました。

●2005年度の概要

開催日時：2006年1月19日（木）13:00～16:30

20日（金）9:30～13:00

開催場所：講堂兼体育館

出展企業：

業種	出展企業		計
	1月19日	1月20日	
製薬企業	19	14	33
CRO	4	2	6
医薬品卸売業	4	0	4
薬局	23	34	57
計	50	50	100

後期試験終了後の日程を設定しました。当日は、第一級の寒波に見舞われましたが、2日間で500名を超える学生の参加がありました。

対象学生としては、主に就職活動を控えた3年次生、進学を控えた4年次生、進路決定していない4年次生と大学院生、および2年次生です。

進学予定の4年次生は、進学後の研究職や臨床開発職の採用に関する情報収集。未決定の学生は、継続して採用活動をしている薬局等があるので対象としました。2年次生については、就職意識を高めてもらうことを目的としています。



セミナー全景



ある企業ブース。真剣な眼差しを向ける学生

●2006年度の概要

○大学院

開催日時：2006年9月15日（金）9:30～12:30

13:00～16:00

開催場所：愛学館A23・A24自習室

出展企業：

業種	出展企業		計
	午前	午後	
製薬企業	6	6	12
CRO	2	3	5
計	8	9	17

前年度の企業セミナーでは、大学院進学者に対して、製薬企業の『研究職』『臨床開発職』等、各自希望する職種について情報収集するように指導しました。一方で企業は、これから採用活動が始まるMRを中心とした説明をします。進学予定の学生にとっては、希望職種の情報収集は困難だったと思います。

そこで、新たに大学院生を対象としたガイダンスを開催しました。

大学院博士前期課程および修士課程1年次生を対象とした採用活動は、9月下旬から始まります。企業からは、具体的な採用情報の開示もありました。

これまでは、同じ時期に、OB・OGを招いて職種説明会を開催していました。この職種説明会に替えての開催です。

実際に研究職や臨床開発職に就いている先輩の話は、職種に対するイメージを持つためには有効ですが、この差し迫った時期には、それよりも、実際に企業と接触するほうが有効だと判断しました。大学院博士前期課程および修士課程1年次生は、この時期までに、自分の希望する職種について、充分研究を重ね、就職について明確なビジョンを持つ必要があります。

また、進学予定の4年次生も参加しました。4年次生については、就職活動までの時間が、あまりないことを自覚してもらい、将来について真剣に考える契機にしてほしいと思います。9月の大学院生対象のセミナーまでに、希望する職種をはっきりさせ、その職種に対するイメージをしっかりと持つようにしてください。

なお、『研究職』『臨床開発職』については、毎年採用があるわけではありません。出展企業については、事前に採用の予定がある企業を調査し、選定しました。

前年度のセミナーでは、説明時間を設定していませんでした。アンケートで、各企業の説明時間がまちまちで効率的に企業を訪問できなかったとの指摘があり、このセミナーから一回の説明時間を概ね30分とし出展企業に協力を求めました。



大学院企業セミナー会場



会場の様子 (A24自習室)

○学 部 (2006年11月現在予定)

開催日時：2006年12月11日 (月) 13:30～17:00

12日 (火) //

開催場所：講堂兼体育館

出展企業：

業種	出展企業		計
	12月11日	12月12日	
製薬企業	17	23	40
CRO	3	3	6
SMO	1	0	1
医薬品卸売業	2	2	4
薬局	35	29	64
計	58	57	115

昨年度のセミナーのアンケートで、学生、企業双方から寒さ対策を指摘されました。会場の講堂兼体育館では、前回以上の防寒対策は、困難なため、1ヵ月早めて開催することになりました。

授業に影響が出ないよう日程等を配慮しています。アンケート等で問題がなければ来年度以降も同時期に開催したいと思います。

会場のレイアウトを見直し、ブースを増やしました。

新たな試みとして、就職支援サイトを運営している企業2社に依頼し、『就職活動相談ブース』を出展しました。プロの視点で、企業研究や自己分析についてアドバイスしてくれたものと思います。充分利用できましたか？

－ 学内企業セミナーの歩き方 －

学内企業セミナーは様々な業種・企業の特徴をつかむ機会です。

次のことを意識してください。

- ①できるだけ多くの企業を訪問する
- ②業種に拘らず訪問する
- ③積極的に参加する

①できるだけ多くの企業を訪問する

会場を集約しているの、カタログ的に出展企業を見ることができ、気軽に訪問することができます。個人で115社の企業を訪問することは不可能です。この機会を有効に活用し、限られた時間ですが、できるだけ多くの企業を訪問してください。

②業種に拘らず訪問する

製薬企業をはじめ、CRO、SMO、医薬品卸売業、薬局（保険薬局、ドラッグストア）と多くの業種が出展しています。各業種には、あなたにとって魅力的な部分とそうではない部分があると思います。それぞれの話を聴いて、進路選択の基準にしてください。

現4年次生の内定者報告会の中で、業種を絞りきれなかった学生が、企業セミナーで様々な業種の話聞くことで、進路を決めることができたと言っています。

同じように迷っている学生は、自分の進路を決定する判断基準を持てるようにしてください。そのため、できるだけ多くの業種・企業の話の聴き、比較することが重要です。それぞれの業種の特徴や自分の適性を判断できるようにしておきましょう。

すでに進路を決めている学生は、目当ての企業、業種の説明を受けると、自分が目指す職種の良さや志望動機などがより一層明確になります。また、希望職種以外の説明を聴くと、希望職種と比較できるとともに、別の角度から希望職種を見ることができます。時間を有効に使い、色々なブースを見て回るようにしてください。

③積極的に参加する

ブース形式では、少人数を対象にしているため、細かい話をきくことができます。また、採用担当者と双方向で情報のやり取りがしやすいというメリットがあります。

企業セミナーで積極的に質問して、採用担当者に名前を覚えてもらった学生もいます。チャンスは思わぬところに転がっています。学内セミナーもア

ピールの場になります。漫然と企業からの説明を聴くだけではなく、氏名を名乗ってから発言するなど、こちらからも積極的に働きかけましょう。

また、本学OB・OGを同行する企業が多くあります。卒業生は、後輩のために、答えにくい質問であっても、真摯に対応してくれます。せっかくの機会ですから、先輩の本音を引き出し、企業研究に活かしてください。そこから、その企業のイメージを膨らませることもできるでしょう。

－ お わ り に －

この記事が、出る頃には、既に今年度の学内企業セミナーは終了しています。

みなさんの学内企業セミナーはどうでしたか？就職活動の準備は万端ですか？

就職活動は、後期試験終了後が本番です。それまでは助走期間として、自己分析や業界研究に取組んでください。

就職支援サイトは、10月から本格的にオープンしています。また、他大学の学生から11月・12月から活動を始めているというような話を聞くと、焦りも感じるでしょう。

しかし、1月中は学業を優先して、この時期にできること（＝自己分析・業界研究・会社研究）に集中してください。（特に製薬企業やCRO希望の場合は、後期科目の再試験を残すと、就職活動に出遅れます。正規試験ですべて合格するよう勉強してください）

自己分析などの準備が不十分なまま、就職活動しても満足いく結果は得られないと思います。

**自分を商品として売り込めるほど、自分を知る。
希望する企業で働いている5年後10年後の自分が想像できるほどの企業研究をする。**

それらのことができていれば、面接などで自分のことや志望動機について、熱く前のめりになって語れるはずです。

また、対策が立てられるものについては、準備を怠らないようにしましょう。進路支援課の資料室には、先輩たちの就職活動の記録が『就職試験内容報告書』として残っています。報告書を参考に、自分が希望する企業の採用試験について調べ、筆記試験の対策や、面接試験では自分だったらどのように答えるのか考えてみましょう。

これらのことは、授業や研究の合間にもできることです。時間を見つけて取組んでください。

セミナーに出展した企業からは、職種に関する深い理解や就職に対する意識の高さなどが、評価されています。また、礼儀正しさとマナーなどについて

も、問題を指摘されることはほとんどありません。京薬生は、優等生タイプでおとなしいというイメージでしょうか。

最初にも書きましたが、今後、薬学生・薬剤師の就職環境は、ますます厳しくなります。

その中で勝ち残っていくには、プラスαが必要です。就職活動では、大学や企業から与えられるものだけを、受け取っているだけでは、不十分です。これからは、薬剤師も淘汰される時代です。自ら積極的に、食欲に物事に取組んでください。

進路支援課は、すべての学生が満足して進路決定できることを望んでいますし、そのためのサポートを惜しみません。

ただし、みなさんからアプローチなければ、アドバイスすることもできません。

どうぞ、積極的に進路支援課を活用してください。また、改善点など提案があれば、できるだけ伝えていきたいと思います。気軽に進路支援課に足を運んでください。（窓口時間：月～金 8:45～17:15）

みなさんの健闘を祈ります。

（原稿執筆時点11月 進路支援課）

－ 学内企業セミナー出展企業一覧 －

区分	企業名	2006		2005
		学部	大学院	
製薬企業	旭化成	○		
	味の素ファルマ	○		○
	アステラス製薬	○		
	アストラゼネカ	○		○
	天藤製薬	○		○
	エーザイ	○	○	○
	大塚製薬	○	○	○
	小野薬品工業	○		○
	キョーリン製薬	○		
	協和発酵工業	○		○
	共和薬品工業	○		
	キリンビール 医薬カンパニー	○		○
	グラクソ・スミスクライン	○		○
	健栄製薬			○
	興和	○	○	○
	サノフィ・アベンティス	○		
	塩野義製薬	○	○	○
	滋賀県製薬	○		
	生見栄養薬品	○		
	ZLBベアリング			○
	ゼリア新薬工業	○		○
	大正製薬		○	
	大昭和製薬	○		
	第一三共	○		○
	大日本住友製薬	○	○	○
	大鵬薬品工業	○	○	○
	武田薬品工業	○	○	○
	田辺製薬	○	○	○
	田村薬品工業	○		
	中外製薬	○		○

区分	企業名	2006		2005
		学部	大学院	
製薬企業	ツムラ	○		○
	帝人			○
	トーアエイヨー	○		○
	東洋化学	○		
	富山化学工業		○	
	日新薬品工業	○		
	日本新薬	○	○	○
	日本イーライリリー	○		○
	日本ベーリンガーインゲルハイム	○	○	○
	ノバルティスファーマ			○
	バイエル薬品			○
	万有製薬	○		○
	ファイザー	○		○
	福地製薬	○		
	三菱ウェルファーマ	○		○
	明治製菓	○		○
	ヤンセン ファーマ	○		○
CRO	イービーエス	○	○	○
	シミック	○	○	○
	新日本科学	○	○	○
	東京CRO	○		○
	パレクセル・インターナショナル	○	○	○
	ベルシステム24	○	○	○
SMO	オーエスエムオープラス	○		
医薬品卸	アルフレッサ	○		
	エバルス	○		○
	クラヤ三星堂	○		○
	サンキ			○
	スズケン	○		○
薬局	アインファーマシーズ	○		○
	アイン東海			○
	アライドハーツ・ホールディングス	○		
	イオン	○		○
	いかがく	○		○
	イムノファーマシー大阪	○		○
	イング ひまわり薬局	○		○
	エビラファーマシー	○		○
	オーシービー	○		
	オーバス サエラ薬局	○		○
	オカモト調剤	○		○
	関西メディコ	○		○
	かんまき薬局	○		
	共栄ファーマシー	○		○
	京都シグマプラン	○		○
	京都ファーマ	○		○
	協立薬品	○		○
	杏林堂薬局	○		○
	麒麟堂	○		○
	クスリのアオキ	○		○
	クラフト さくら薬局	○		○

区分	企業名	2006		2005
		学部	大学院	
薬局	ケイ・ディ・フドー	○		
	コクミン	○		○
	ゴダイ 五大薬局	○		○
	サンドラッグ	○		○
	サンブラザ加地	○		○
	CFSコーポレーション			○
	ジップホールディングス			○
	祥漢堂	○		
	スギ薬局	○		○
	スギヤマ薬品	○		
	セイジョー	○		○
	セガミメディクス	○		○
	総合メディカル	○		○
	ダイゴ ヤクゴ薬局	○		○
	ダイヤライフ	○		
	たんぼば薬局	○		○
	中国ファーマシー	○		○
	ツバイ うめ薬局	○		
	テイオーファーマシー ジオ薬局	○		○
	東邦調剤	○		
	富永調剤薬局	○		○
	ナガタ薬品(アルカ アルカ調剤)	○		○
	奈良ヘルスケアサービス しあわせ薬局	○		
	ニチホス	○		○
	日本調剤	○		○
	はいやく	○		
	阪神調剤薬局	○		○
	ヒグチ産業	○		○
	ファークス	○		○
	ファーマシイ	○		○
	ファーマプロット			○
	ファーマライズ	○		○
	ファルコクリニカルプラン	○		
	ファルメディコ ハザマ薬局	○		○
	ブルークロス ブルークロス調剤薬局	○		○
	フロンティア	○		○
	ベル企画	○		
	ぼうしや薬局	○		
	マツモトキヨシ	○		○
	マルゼン薬局	○		○
	ミツコヘルスケアプランニング キュービー薬局	○		○
	みやこ薬局	○		○
	メディカプラン京都	○		○
	メディカルー光	○		○
	山科シティ薬局			○
	ゆう薬局	○		○
	ユタカファーマシー	○		○
	リゲルコーポレーション			○
	リジョイス薬局	○		○
	リライアンス			○

ド イ ツ 滞 在 記

異文化体験

ー フライブルク大学サマープログラムを体験して ー

今年もドイツ南西部にあるフライブルク大学国際局主催の「日本人学生のためのサマープログラム」に本学からも2年次生を中心に20数名が参加した。今年で10回目を迎えた同プログラムは低迷するドイツ語とは全く逆現象が起こっており、参加者はうなぎのぼりで本学は全国有数の最多参加者校として名をはせている。60数校あるドイツの総合大学の中で日本人を対象としたドイツ語講座を開講しているのはフライブルク大学だけだ。生まれて始めて海外渡航した先がドイツという参加者も多く、授業で少しは習ったものの言葉も習慣も未知なる世界へ飛び込んで行った参加者は最初戸惑いがあったものの充実した1ヶ月間のドイツ滞在を満喫できたようだ。「異文化体験」というテーマで今回の夏プログラムに参加した2年次生の人たちにドイツでの体験や思い出を綴ってもらった。同プログラムは料金も格安（授業料＋寮費で約12万円）、フランス・スイスへのバス旅行や充実した午後のプログラムなど楽しい催し物も用意されている。関心のある方は6号館桑形研究室までお気軽に。ただし本学は20名の人数制限があり早い者勝ちである。

行って良かったドイツ留学

2年次生 上山慶太

私は日本人学生のためのサマープログラムに参加し、一ヶ月間のドイツ短期留学を体験しました。この短期留学には、先生や昨年行かれた先輩方から聞き参加することに決めました。

授業は、15人程の少人数でレベルごとに分けられました。レベルの低いクラスでは日本語を話せる先生が担当でした。授業は、文法はもちろんのこと、ペアを組み日常的な会話を練習したり、シャドーイング等を行いました。授業前の質問コーナーでは、授業の質問だけでなく、フライブルクでの生活で疑問に思ったことや、穴場のレストラン、観光地等、普通の観光案内所では教えてもらえない話も沢山聞くことができました。授業とは別に、日本人講師によるフライブルクの歴史や環境政策の講義もあり、フライブルクが第二の故郷とも言える程の知識が身に付きました。

サマープログラムには授業だけではなく、レクリエーション・週末日帰り旅行も用意されています。地元のドイツ人の方も行く機会のないような場所へ出かけたり、パイプオルガンコンサート、ドイツ料理を作ったりとどれも思い出に残るイベントばかりでした。週末日帰り旅行は、ボーデン湖とスイスのラインの滝、ハイデルベルク、フランスのストラスブールと、近隣国にも観光し盛りだくさんの日程でした。特に印象的だったのがラインの滝です。滝の中央にある展望台まで遊覧船で行くことができ、その展望台からの眺めは威容で、人の小ささを思い知らされました。



学生寮にて

学生寮では、3、4人共同でシャワーやキッチンを使うため、寮生とは単語を並べて話し、ジェスチャーも交え、それなりにコミュニケーションを取ることができました。

今回でドイツが好きになり、次は一人で北ドイツへ旅行したいと思っています。おくすることなく言語を使うことで、多国籍の人達との交流につながり、自分の視野を広げてくれたと思います。

少しでもドイツ留学に興味を持たれた方にはこのサマープログラムをお勧めします。チューターの方にとっても優しく最後まで世話して頂けるので、初めてでも不安を感じることなく過ごすことができます。行って損することは絶対にありません。一回り大きくなれることを約束します。是非行ってみたいかがでしょうか？

もう一度行きたいフライブルク 2年次生 内藤 行喜

私は今年の8月にドイツのフライブルク大学で行われた、“日本人のためのサマープログラム”に参加してきました。

このプログラムは簡単に説明すると、ドイツ人講師によるドイツ語研修で、午前中は朝9時からお昼の12時半まで休憩をはさんで授業があり、午後からは自由行動でした。フライブルクはドイツの南側に位置していて、フランスとスイスの国境近くに位置する街なので、各自友人たちや個人で電車を乗り継いだりしてフランスやスイスに買い物に行ったり、またはフライブルクの街を探索したりと思い思いの午後を過ごしていました。また、平日の午後はプログラムのスタッフさんたちが考えてくれたレクリエーションプログラムや週末には日帰り旅行もあり、毎日楽しい時間を過ごして、寮の自分の部屋に戻るころには疲れてクタクタになっていました。

様々な国籍のルームメイト達と出会える点で、寮生活もこのプログラムの魅力でもあると思います。私のルームメイトはドイツ人と中国人でしたが、私の部屋は入寮日からプログラム開始後2週間ぐらいいまですべて2人ともバケーションや実家に戻っていたりしていたので、1人で部屋を使用していました。そのためキッチンやバスルームの使い勝手が分からず、最初のうちは戸惑い、寂しい思いをしました。そして、しばらくしてからルームメイトが寮に戻ってきたのですが、今度は逆にコミュニケーションをとったりすることに苦労しました。今まで自分1人だけだったので、ある程度自分勝手にキッチンなど利用していたのですが、ルームメイトがいると周りのことも気にする必要がでてきますが、慣れれば大丈夫でした。

サマープログラムでは、日本人ばかりなのでどうしても日本語を話すことが多くなってしまいますが、ルームメイトとは出来るだけドイツ語を、分からない場合は英語で会話していました。ルームメイトは2人とも親切で、分からないことがあって質問したらきちんと教えてくれるし、例えたどたどしい英語であっても理解してくれたので、コミュニケーションをとる上で、心配する必要はありませんでした。

私は今回、初めてのヨーロッパ滞在だったので、右も左も分からない状態で不安な時ももちろんありましたが、ドイツ人達、特にフライブルクに住んでいる人達が親切だったので、楽しく、また充実した中身の濃い1ヵ月間を過ごすことが出来ました。

この夏休みの1ヵ月間を今振り返ってみて思うことは、1ヵ月という期間は長いようで短く、楽しんだ者勝ちだということです。ドイツ語が出来る、出来ないを気にせず、ヨーロッパ・ドイツならではの空気に触れて、日本とは違うところ、日本では経験できないものを体験し、たくさんの人と出会うことのできた本当に中身の濃い1ヵ月間でした。



Martins Bräuにて

ドイツ体験記 2年次生 川口 晃司

この夏に体験したドイツでの生活はなにもかもが新鮮で、子供の頃のように見るもの全てに心を動かされた。

例年この時期のドイツの気候は暑すぎず、寒すぎず過ごしやすく、ほとんどの日が快晴なはずが、今年は逆にほとんどの日に必ず数時間はわか雨が降り、気温もだいぶ低めだった。ただ日本と比べて断然日が長いということは変わるはずもなく、午後九時頃になってやっと日が沈むくらいだった。

プログラム中は参加者は皆学生寮で生活することになっている。寮によっては部屋内のキッチンとトイレをルームメイトと共同で使用するしなければならない。ルームメイトは全員外国人である。

自分のルームメイトはドイツ人の陽気なおじさんだった。彼と初めて出会ってから別れるまで、彼は自分の前ではいつもニコニコしていた。ところが彼と出会ってまだ二日目の晩、自分が友人と二人で共同キッチンで夕食を食べていると、彼が突如ブリーフ一枚で「ハロー」とにこやかに現れ、キッチン内をうろつきだしたのには驚かされた。近くの壁に貼付けられた写真には、舞妓の恰好で寝そべっている彼の姿がアップで写されていた。

このプログラムのドイツ語の授業は実践的で日常で使える内容が多く、実際店などで早速使ってみました。

ドイツでの授業は昼までで午後からは基本的に自由なのだが、毎日向こうのスタッフがレクリエーションを企画してくれていて、その内五種類まで選んで参加することが出来る。自分はドイツの音楽に興味を持っていたので、レクリエーションで組まれているいくつかのコンサートに参加し、そこで初めて聞く生のパイプオルガンやチェンバロの音色に感動を覚えた。

このプログラムでは毎週土曜日に小旅行が企画されていて、ドイツのハイデルベルクやフランス、スイスへバスで連れていってもらえた。また日曜日には自分達でいろんな観光都市に遊びに行った。ケルンでは大聖堂に登り、フュッセンでは古城を巡り、ミュンヘンでは美術館や名所を回ったりと土日も毎週強行スケジュールでフル活動していた。

ドイツには何故か中華とケバブ料理店が多く見られた。またJapanese shopというのがあり、そこでは日本米からオタフクソース、かっぱえびせんまで何でも売っていたので、たまに寮の仲間と日本食パーティーを楽しんだりもした。

ドイツでの一ヶ月は本当にあっという間だったが忘れられないような経験も数多く出来た。機会があるならば、何度でもまたドイツに行きたいと思う。



大学近くのバーの名物「1mビール」

Wunderbar, Sommer

2年次生 木田 佳枝

今夏、私はフライブルク大学のサマープログラムに参加しました。このプログラムの存在を知ってからずっと行きたいと思っていたので、正式に参加できる旨を知らされた時は本当に嬉しかったです。

具体的にフライブルクで何をしてきたのかと言いますともちろんドイツ語の授業を受けてきました。平日の午前中は授業で、午後はレクリエーションプログラムに参加したり、夕食のメニューを考えながら買い物をしたり、フライブルクの町を散策したりしていました。土曜日は小旅行に連れて行ってもらいました。小旅行ではハイデルベルク、ボーデン湖、フランスのストラスブールに連れて行ってもらい、チューターの人にある程度見所を紹介してもらいました。日曜日はプログラムの行事がなくフリーだったので各自寮でゴロゴロしたり、近隣の都市へ出向いたりしました。私はじっとしているのが苦手なので常にどこかしらに出かけていました。

授業はプログラムの開会式の際に行われたクラス分けテストによって6クラスに分かれて行われまし

た。クラス分けテストは筆記だけだったので予想より上位のクラスになってしまいものすごく困惑しました。実際、最初の授業は先生がドイツ語で授業を進めるので今何をやっているのか、何をすべきなのかは一切わかりませんでした。半分グレそうになりながら授業を聞いていました。わからないからといって黙っているのは性に合わないので先生に対して「意味わからない」などの日本語を使いまくりました。今思うと気の弱そうな先生だったからできたことだと思いますが…(笑)。その甲斐あってかプログラムの最後にはある程度ドイツ語を聞いて理解することができるようになりました。私のクラスの授業の特徴としては毎授業必ず1曲歌を歌うことが挙げられます。歌は頭にメロディーが残る自然とドイツ語を口ずさめるのでドイツ語を学ぶには効果的だったと思います。他には様々な場面(例えば買い物、電車に乗る時、レストランなど)での会話練習や動詞の語尾変化などを中心に勉強しました。時には会話の実践のため、クラスのみんなでミュンスター広場で毎朝催されている朝市に行ったり、一緒に昼食を食べに行ったりしました。クラスの雰囲気はというと基本的に同年代で2、3名程定年退職された方や、一度大学を卒業した方などがいましたが、最初の頃こそギクシャクしていたものの最後にはやたらとテンションの高いクラスになっていました。授業とは別でクラスの人とご飯を食べに行ったり、先生の為に折り紙を折ったりしました。

他にもレクリエーションの話、フライブルクの話など話したいことは山程あります。それくらいこのプログラムは自分にとって充実したものであり、様々なことを学ぶよい機会になったと思います。



お土産にワインを♪

COE中間評価で最も高い「計画は順調で、目的達成が可能」の評価

受賞

教育賞受賞 ご挨拶



薬品化学教室

助教授 林 良雄

ー 町の化学者 ー

子供の頃、とても変な癖をもっていました。私は、「日本中心の碑」がある信州の田舎町で育ったのですが、小学校の高学年になるちょっと前辺りから、「薬局回り」をしばしばしていました。あの頃、町には4つか5つの薬局があって、そのうち3つがいつも標的になりました。自転車で一度行くと何時間も帰りません。薬局のおじさんは随分困ったかもしれません。風邪薬とかを買いにいったのではありません。お客さんが来るとその間は静かに待ちます。でも、サトちゃんゾウに乗りに行ったわけでもありません。実はあの頃、たいていの薬局の調剤室の片隅、どちらかというと棚の上の椅子がないと取れない辺りに、なぜか理科の実験器具が置いてありました。アルコールランプ、ビーカー、滴下瓶、試験管などなど、すごく魅惑的な実験器具の数々。何時間もかけて薬局のおじさんと値段交渉です。売り物かどうか分からないほこりをかぶった器具を狙って、値段を聞いては小遣いとにらめっこ。

中学校に入る頃ですが、自分の部屋で水の蒸留実験をしていました。ガスバーナーはないのでニクロム線電熱器でフラスコを加熱して、ガラス細工がで

きないのでリービッヒ冷却管とは黒ゴム管で繋いで、コルク栓に巧く穴を開けられずに、無理矢理差し込んだガラス管の脇から水蒸気が漏れ出して、それでもなんとか蒸留水がリービッヒ冷却管の先から出てきた時は感激でした。でも、集めた蒸留水は黒ゴム管の臭いがすごくて……。だから、また新しい器具を探しに薬局へ。私にとって、あの頃の薬局のおじさん達こそ「化学者」でした。田舎町の化学者は、ゴム栓にコルク栓ボーラーで穴を開けてくれました。棚の上に飾ったさびた薬さじを一所懸命磨き粉で磨いてから分けてくれました。私がいま大学にいて、薬の研究の道に進んだ原点は、田舎町の薬局だったのです。医薬分業、高度臨床薬剤師、薬学6年制と薬学を取巻く環境は大きく変わっています。小奇麗な調剤薬局の中には、もう理科の実験器具は飾られていません。「町の化学者」はいつのまにか消えてしまいました。理科の実験器具は東急ハンズで買えたりもします。

先日、学会でドイツを訪れる機会がありました。ドイツは医薬分業が進んだ国です。薬剤師の地位は高く、町中のいたる所にある薬局(Apotheke)は威厳に満ちています。歴史が違います。1437年創業なんて書いてある店もあります。でも、感激したのは、ここにはまだ理科の実験器具や薬瓶が堂々と店先に置かれているのです。町の化学者はきっと健在なのでしょう。変な癖のある子供を相手に化学を語っているかもしれません。医療サービス充実の中で薬剤師の専門性が叫ばれ、6年制で薬学の軸足が臨床薬剤師に置かれても、それでも、生体に機能する分子を扱う「薬学人」は、いつまでも「化学」を熱く語らなくてははいけないのです。

この度、京都薬科大学2005年度教育後援会教育賞を頂きました。関係の皆様には厚くお礼申し上げます。

第6回国際老年精神神経薬理学会年会

The 6th Annual Meeting of International College of Geriatric Psychoneuropharmacology
国際若手研究者奨励賞 (International Junior Investigator Award) 受賞



病態生理学教室 助手 高田 和幸

2006年10月3日～6日に、広島大学医学部山脇成人教授が組織委員長を務められる第6回国際老年精神神経薬理学会年会在広島で開催されました。この学会において、本学病態生理学教室の高田助手が国際若手研究者奨励賞を受賞いたしました。本受賞は本学病態生理学教室の谷口教授、北村助教授のもと一貫して進めている、神経変性疾患におけるミクログリアの役割や機能を解析した一連の研究が評価されたものです。この学会では、10月3日に広島全日空ホテルで受賞者プレゼンテーションを、10月5日には広島国際会議場においてポスタープレゼンテーションを行いました。

日本ペプチド学会奨励賞 受賞

薬品物理化学教室 相馬洋平博士

「*α*-アシルイソペプチド法」の開発

相馬洋平博士(日本学術振興会特別研究員)は表題の研究成果が認められ、平成18年度日本ペプチド学会奨励賞を授与されました。2006年11月8日、横浜で開催されたInternational Conference of 43rd Japanese Peptide Symposium/ 4th Peptide Engineering Meetingにおいて、表彰式と受賞講演が行われました。



2nd International Symposium on Biomolecules and Related Compounds 第2回国際生物分子と 関連化合物シンポジウム 開催

2006年11月10日～12日にかけて、本学21世紀COEプログラム「統合創薬の開拓」ならびに創薬科学フロンティア研究センターの共催により、表題の国際会議が本学愛学館にて開催されました。米国、フランス、スイス、ドイツ、日本からの招待講演(17題)を中心に、口頭発表(17題)、そしてポスター発表(44題)が行われ、180名の参加者が集う活発な討論会となりました。本学からは、廣田俊、林良雄、松田久司の各助教授を始め、6名の若手研究者らが口頭で研究成果を発表しました。



新聞記事紹介

アルツハイマー病治療薬の研究が 毎日新聞に紹介される

本学薬品化学教室の木曾良明教授(本学21世紀COEプログラム・拠点リーダー、創薬科学フロンティア研究センター長)らのアルツハイマー病治療薬に関する研究が、毎日新聞2006年9月15日朝刊で紹介されました。

毎日新聞では9月14日～16日の3日間、「アルツハイマー最前線」というテーマで特集を組み、3回(上・中・下)にわたってアルツハイマー病予防・治療法の現場を報告していましたが、その中で木曾教授らの研究は第2回(中)の「有害たんぱくを作らせない」と題して9月15日号に掲載されました。

毎日新聞9月15日朝刊

21世紀COEプログラムのプロテオーム 研究が京都新聞に紹介される

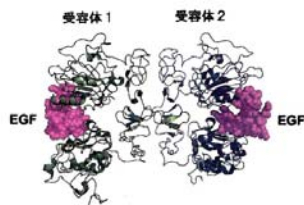
齋藤一樹特任助教授(21世紀COEプログラム・プロテオーム支援室・室長)が、本学着任前からこれまで継続して行っているプロテオーム研究について、京都新聞10月19日朝刊の科学欄「生命科学は今」にハイライトされました。「疾患プロテオーム」から「構造プロテオーム」、「創薬プロテオーム」と進化するプロテオーム研究の潮流が紹介され、本学21世紀COEプログラムでの創薬研究の背景などがわかりやすく解説されています。



菅原一樹・京都薬科大学教授

創薬プロテオーム

タンパク質の構造から薬設計



EGFが結合した受容体の細胞外領域の構造

タンパク質は、生物の身体を構成する主要な物質。タンパク質の異常は、さまざまな疾患の原因になる。タンパク質は遺伝子DNAの情報から作られ、DNAの配列が分ればアミノ酸の配列が分かる。しかし、タンパク質の機能のすべては分らない。タンパク質は硬い直線的な物質ではなく、柔軟な立体構造をたどる。

例えば、細胞膜や細胞内での情報の伝達を担うタンパク質は、分子の「形」が重要になる。タンパク質の機能のほとんどは、生体内でどのような形になっているかを決定することが必要である」と京都薬科大学の菅原・樹特任助教授(プロテオーム)。

菅原教授は、科学技術振興事業の「創薬プロテオーム」が注目している。タンパク質の構造から薬を設計する。タンパク質の構造は、遺伝子DNAの配列から作られ、DNAの配列が分ればアミノ酸の配列が分かる。しかし、タンパク質の機能のほとんどは分らない。タンパク質は硬い直線的な物質ではなく、柔軟な立体構造をたどる。

例えば、細胞膜や細胞内での情報の伝達を担うタンパク質は、分子の「形」が重要になる。タンパク質の機能のほとんどは、生体内でどのような形になっているかを決定することが必要である」と京都薬科大学の菅原・樹特任助教授(プロテオーム)。

生命科学は今

タンパク質は、生物の身体を構成する主要な物質。タンパク質の異常は、さまざまな疾患の原因になる。タンパク質は遺伝子DNAの情報から作られ、DNAの配列が分ればアミノ酸の配列が分かる。しかし、タンパク質の機能のほとんどは分らない。タンパク質は硬い直線的な物質ではなく、柔軟な立体構造をたどる。

例えば、細胞膜や細胞内での情報の伝達を担うタンパク質は、分子の「形」が重要になる。タンパク質の機能のほとんどは、生体内でどのような形になっているかを決定することが必要である」と京都薬科大学の菅原・樹特任助教授(プロテオーム)。

菅原教授は、科学技術振興事業の「創薬プロテオーム」が注目している。タンパク質の構造から薬を設計する。タンパク質の構造は、遺伝子DNAの配列から作られ、DNAの配列が分ればアミノ酸の配列が分かる。しかし、タンパク質の機能のほとんどは分らない。タンパク質は硬い直線的な物質ではなく、柔軟な立体構造をたどる。

例えば、細胞膜や細胞内での情報の伝達を担うタンパク質は、分子の「形」が重要になる。タンパク質の機能のほとんどは、生体内でどのような形になっているかを決定することが必要である」と京都薬科大学の菅原・樹特任助教授(プロテオーム)。

菅原教授は、科学技術振興事業の「創薬プロテオーム」が注目している。タンパク質の構造から薬を設計する。タンパク質の構造は、遺伝子DNAの配列から作られ、DNAの配列が分ればアミノ酸の配列が分かる。しかし、タンパク質の機能のほとんどは分らない。タンパク質は硬い直線的な物質ではなく、柔軟な立体構造をたどる。

例えば、細胞膜や細胞内での情報の伝達を担うタンパク質は、分子の「形」が重要になる。タンパク質の機能のほとんどは、生体内でどのような形になっているかを決定することが必要である」と京都薬科大学の菅原・樹特任助教授(プロテオーム)。

京都新聞10月19日朝刊

細胞移植による新規アルツハイマー病治療法開発に向けた研究が日本経済新聞に紹介される

本学病態生理学教室の谷口教授、北村助教授が滋賀医科大学分子神経科学研究センター遠山育夫教授らと共同で行っている、細胞移植による新規アルツハイマー病治療法開発に向けた研究が日本経済新聞11月20日号(朝刊)に掲載されました。脳内で異物除去機能を持ったミクログリアと呼ばれる細胞に着目し、この細胞を培養後、アルツハイマー病発症の原因物質と考えられている蛋白質(アミロイドβ)を脳内に注射したラットに末梢から移植しました。その結果、沈着した脳内アミロイドβ周辺に移植したミクログリアが集積していることを発見しました。

アルツハイマー病。培養細胞を使い、たんぱく質の異常を調べる。たんぱく質の異常は、さまざまな疾患の原因になる。たんぱく質は遺伝子DNAの情報から作られ、DNAの配列が分ればアミノ酸の配列が分かる。しかし、タンパク質の機能のほとんどは分らない。タンパク質は硬い直線的な物質ではなく、柔軟な立体構造をたどる。

例えば、細胞膜や細胞内での情報の伝達を担うタンパク質は、分子の「形」が重要になる。タンパク質の機能のほとんどは、生体内でどのような形になっているかを決定することが必要である」と京都薬科大学の菅原・樹特任助教授(プロテオーム)。

日本経済新聞11月20日号

京薬祭を終えて・・・

2006年度京薬祭実行委員長
3年次生 原田 祥代

とうとう京薬祭が終わりました。後期の授業が始まってからは、京薬祭をどうやったら成功させられるかだけを考えていました。みんなの強い思いが届いたのか、当日一滴の雨も降らずに、素晴らしい学祭を開催することができました。

京薬祭を終えた現在、今日まで毎日悩んでプレッシャーに押し潰されそうだったのが嘘のような開放感に満たされています。後期に入ってから実行委員の働きは目を見張るものがありました。1、2年次生は自分の企画をもち、その企画をいかに成功させるか、どうやったら見ているみなさん全てに楽しんでもいただけるかを考え悪戦苦闘していました。3年次生は、当日いかに学祭をスムーズに進行・運営させるかを考える委員に配属され、当日事故のない学祭にするために、走り回ってくれました。そして幹部は、今年度は芸能人を吉本の漫才師にしたこともあり、去年のマニュアルもなく自分たちで何もかも作っていくという辛さを知りました。今年のテーマは「all for one, one for all」です。実行委員みんなが当日のひとつの「学祭」成功のために、そして「学祭」を楽しみにしてくれている皆さんのために、実行委員一人ひとりが努力しました。私は実行委員長になり、学祭全ての責任が自分にかかってくるという、今までに経験したことのない場面に遭遇し、否応なく対応を迫られることとなりました。そんな時に、同じ思いを持ち支えてくれたのが幹部の仲間です。この「all for one, one for all」をそのまま実行して私を理解し支えてくれました。このテーマは実行委員一人ひとりの心に深く刻まれたと思います。

京薬祭実行委員を通じて、部活後に夜遅くまで連日作業し、疲れもストレスもたまっていました。しかし全てが終わり、今振り返れば楽しかったことしか思い出せません。私は「実行(京薬祭実行委

員)」に入って貴重な経験をいくつも積みめました。最後まで京薬祭をやり遂げて言葉にならないほどの大事なものをこの手に掴みとれました。

このような素敵な経験は「実行」だけではなく他のことにも言えます。部活でも、何をしていても辛く厳しいことはありますが、それを乗り越えて最後まで続けたからこそ見えるものは必ずあります。みなさんにはそれを見ていただきたいです。

最後になりましたが、2006年度京薬祭の開催にあたり、ご理解、ご協力をいただきました全ての関係者ならびに近隣住民の皆様に、深く感謝すると共に厚く御礼申し上げます。

ク ラ ブ だ よ り

準硬式野球部

今年度も8月に関西薬学生連盟準硬式野球大会に参加しました。今年度は、前年度と同じく3位という結果に終わりました。来年度は今年度以上の結果を残せるようにがんばりたいです。

また、京滋六大学準硬式野球連盟リーグ戦は3月から4月にかけて春季リーグ戦が、8月から9月にかけて秋季リーグ戦が行われました。現時点ではリーグ戦で勝ち星をあげるのは非常に難しいことではありますが、チーム、個人ともに少しでも良い結果が残せるように日々の練習に取り組んでいます。

現在は、部員23名、マネージャー15名で活動しており、まずは3月に行われる春季リーグ戦に目標を置いて、全員でチーム力の向上目指してがんばっています。

ソフトテニス部

11月4日（土）、5日（日）神鍋ローンコートにて、関西薬学生ソフトテニス六校リーグ戦が行われました。団体戦は、男子優勝、女子4位という結果となりました。また、男子個人戦においては、4位に倉田・片岡ペア、3位に岡元・松木ペアが入賞し、寺井・柴田ペアは優勝という形で終わることができました。女子個人戦では、2ペアがBest16、2ペアがBest8入りしました。

幹部交代をし、新体制となってからの初めての大会でしたが、日頃の練習の成果を試す事ができたという意味で、充実したものとなりました。これからも、来年の薬連に向けて切磋琢磨しあい、日々練習に励んでいきたいと考えています。

ヨット部

10月には本学主管で秋季医歯薬レースが行われました。結果、辰野・大林・岡田組が6位に入りました。OBさんのご協力もあり、無事主管をつとめることができました。11月の京薬祭では、ヨット部として久しぶりに模擬店を出店しました。部員全員で作ったカレーはなかなか好評だったようです。

今後の予定は、

12月 納会

1月 安全祈願

2月 整備

の予定です。3月から再び活動を開始します。ヨットに乘れない時期ではありますが、安全にセーリングできるように整備を中心に頑張っていきます。

ユーベルコール部

私たちユーベルコール部は昨年の5月21日に、本学昭和32年卒業生の同窓会で学歌と一緒に歌ったり、6月4日の京都合唱祭に出場、10月7日に山科の京都府務所にて矯正展のステージにも立ちました。

11月19日に行われました第43回定期演奏会ではたくさんのお客様にも恵まれ、また団員が心を一つにして素晴らしい演奏会を行うことが出来ました。これからも部員たちと楽しく練習を重ねていきたいと思っています。

また今後の活動予定は、

2月 春合宿

3月 卒業式にて学歌演奏

4月 入学式にて学歌演奏
新歓コンサート

6月 合唱祭

8月 夏合宿

11月 第44回定期演奏会

となっております。

管弦楽部

私たち管弦楽部は先月2日に第34回定期演奏会を終えました。たくさんの方にご来場いただき、たいへんうれしく思っております。本当にありがとうございます。

また、この演奏会をもって、今まで部をまとめてくださっていた3年次生の先輩方は、少し活動から離られます。新たなメンバーで、昨年12月にクリスマス会を行い、部内の親睦を深めました。この3月には春合宿も計画しています。先輩方に培われてきた伝統を守りつつ、より良いクラブ活動ができるよう頑張っていきたいと思っています。

その他管弦楽部についての詳細はこちらのホームページをご覧ください

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kpuorche/>

学生用図書（後期）の購入

2006年度の学生用図書後期分を次のとおりに購入いたしましたので、ご利用下さい。

書 名	著 者 名 / 出 版 社
基本有機化学 第3版	ブラウン, ブーン[著], 池田正澄, 奥山格 監訳/廣川書店
メタボリックシンドローム実践マニュアル	船橋徹編集/フジメディカル出版
医薬品開発戦略 : 臨床薬理に基づく	杉山雄一, 津谷喜一郎編集 / 廣川書店
決定版!やさしい分析化学	齋藤勝裕著/講談社
生命秩序を担う生体超分子	阿久津秀雄 [ほか] 編集/共立出版
毒物・中毒用語辞典	Anthony T. Tu編著/化学同人
細胞死・アポトーシス集中マスター	辻本賀英編/羊土社
循環器病の薬物療法	齋藤宗靖編集/メジカルビュー社
微生物学実習提要 第2版	東京大学医科学研究所学友会編/丸善
カールソン神経科学テキスト : 脳と行動	Neil R. Carlson [著]/丸善
医薬系学生のための文章作成法	堤敏彦 [ほか] 著/医療科学社
乳腺疾患の臨床	稲治英生 [ほか] 編/金原出版
コントロールリリース技術	藤井昭治ほか執筆/シーエムシー出版
医療薬学フロンティア	日本医療薬学会編集/薬事日報社
分子標的療法の基礎と臨床	今村雅寛[ほか]編集/篠原出版新社
アインシュタインの情熱	Barry Parker著, 井川俊彦訳/共立出版
微分方程式 : その数学と応用	M. ブラウン著, 一樂重雄 [ほか] 訳/ シュプリンガー・フェアラーク東京
生と死の倫理学 : よく生きるためのバイオエシックス入門	篠原駿一郎, 波多江忠彦編/ナカニシヤ出版
スポーツと脳のはたらき	久保田競著/築地書館
長寿の研究 : 楽観論者のエッセイ	E. メチニコフ著, 平野威馬雄訳/幸書房
構造有機化学 : 有機化学を新しく理解するためのエッセンス	齋藤勝裕著/三共出版
日本の「医療の質」を問い直す	川上武[ほか]著/医学書院
医療情報学入門	樺沢一之, 豊田修一著/共立出版
放射線および環境化学物質による発がん : 本当に微量でも危険なのか?	J佐渡敏彦[ほか]編著/医療科学社
薬剤師・国試がわかる本	テコム薬学セミナー / テコム薬学セミナー
薬剤師国家試験対策 : 黒本	日本医薬アカデミー / 日本医薬アカデミー

他 97冊

書名リストは、図書館ホームページ (<http://libopac.kyoto-phu.ac.jp>) をご覧下さい。

図書館開館日程

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

太字が休館日です。

臨時に休館する事がありますので、図書館掲示板で確認して下さい。

2006年度後期試験日程

教務部 教務課

シラバスにも一部掲載しておりますが、2006年度後期の試験日程は下表のとおりです。

また、再試験受験手続について、例年手続きが遅れる学生が見受けられます。日程等（再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します）よく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」については、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験時まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので、申し出てください。

《後期試験等日程表》

年次	試 験	試験期間	合格発表	手続等
4	薬学特別演習 正規試験	12月21日（木）～ 12月22日（金）	1月11日（木）に掲示で 発表（予定）。	
	薬学特別演習 再試験	2月 8日（木）～ 2月 9日（金）	卒業査定会まで発表しま せん。	2月1日（木）・2日（金）
1～3	後期試験	1月10日（水）～ 1月18日（木）	2月1日（木）に掲示で発 表。	
3	後期科目再試験	2月 6日（火）～ 2月 9日（金）	進級査定会まで発表しま せん。	後期試験の合格発表当日と 翌日を「再試験受験願」受 付日とします。 [2/1(木)・2(金)]
1～2		2月13日（火）～ 2月20日（火）		

教育後援会からのお知らせ

教育後援会の2006年度事業計画ならびに予算（会計年度：2006年10月1日～）が、10月13日（金）に開催の教育後援会総会において、下記のとおり決定されました。

また、総会開催に先立ち、2005年度教育賞（本学学生の教育に多大な貢献をし、その資質向上に功績のあった教員に贈られる）の表彰式が行われ、受賞者である本学 林 良雄助教授（薬品化学教室）に対して、教育後援会長から表彰状ならびに副賞が贈られました。

（単位：円）

項 目	予 算 額	使 途
学生生活支援事業	1,800,000	学生教育研究災害傷害保険料補助（6年間分）
	200,000	保険適用外初診料補助（上記保険適用外の初回治療費を補助）
	300,000	学生補助金（学生自治会の意見を聴取、要望に対して柔軟に補助）
	1,040,000	卒業記念品（教育後援会名で、卒業生個々に記念品を贈呈）
	600,000	卒業祝賀会協賛（卒業生ご父母にご参加頂くため、京薬会に協賛）
	150,000	弔慰金（学生及びそのご父母に対して支給）
	1,500,000	学部生英語受講料補助（学部生を対象に、学内で開講する英語課外講座の受講料の一部を、1人当たり15千円を限度に補助）
	200,000	一般図書の寄贈（専門図書を除く）
	5,000,000	本年度予算化：学生の「憩いの場所」整備事業 快適な学生生活を過ごしてもらうためベンチ・机を寄贈
小 計	10,790,000	
教育研究支援事業	3,300,000	国家試験対策支援 2007年の4年次生用 参考書代
	200,000	教育賞
小 計	3,500,000	
合 計	14,290,000	

教育後援会だより

本年度予算化された、学生の「憩いの場所」整備事業として教育後援会より、ベンチ・机をご寄付頂きました。大切に活用させていただきます。



お知らせ

第12回京都薬科大学一般公開講座

10月21日（土）愛学ホールにおいて、第12回公開講座を開催いたしました。はじめに西野学長の挨拶があり、その後、本学の谷口教授による「私たちもいずれ認知症になる？」のテーマで講演されました。講演の内容が現在、非常に関心度の高い“認知症”に関するものであったこと、また当日は穏やかな天候に恵まれたこともあり、200人近くもの人が受講されました。

特に今年の参加者は、初めての方が70%と多く、また京都市以外から来られた方が、13%もおられました。これは、公開講座はじまって以来の事で、認知症に関する関心度の高さを改めて窺わせました。

また、体育館では、健康科学教室と武田病院のスタッフによる「健康度チェック」やOBによる「くすりの相談」、生薬学教室の「めずらしい生薬」、薬用植物園からは薬用植物の展示、解説を行いました。



健康度チェックの様子

環境と健康コーナーでは公衆衛生学教室による「シックハウス症候群とその原因物質」、薬理学教室による「アレルギーを引き起こす2大原因（スギ花粉とダニ）」、その他、「薬学への誘い」に関する資料のパネル展示・解説も行われました。

中でも、健康度チェックでは、大勢の人が押し寄せ、骨密度の測定など、時間の関係上、一部お断りせざるを得ない状況となるほど盛況でした。

公開講座終了後に行ったアンケートでは、「来年も必ず来ます」「年2回はしてほしい」等、熱心な声がたくさん聞かれ、来年も、地域のニーズに応えられる公開講座を計画し、地域社会との新たな交流の場を提供したいと考えています。

2007年度一般公募制推薦入学試験結果

2007年度一般公募制推薦入学試験が2006年11月18日（土）に実施され、11月25日（土）に合格発表が行なわれました。

その結果は次のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
一般公募制推薦	73名	235名	84名

第92回薬剤師国家試験

第92回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験期日	2007年3月10日（土） 3月11日（日）
試験地	北海道 宮城県 東京都 石川県 愛知県 大阪府 広島県 徳島県 福岡県
試験科目	(1) 基礎薬学 (2) 医療薬学 (3) 衛生薬学 (4) 薬時関係法規及び薬事関係制度
合格発表	2007年4月5日（木）午後2時

2006年動物慰霊祭

10月31日（火）午後2時から動物慰霊祭が、学内の慰霊碑前において執り行われました。この慰霊祭は、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめ、毎年行っているものです。

当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、慰霊碑前で読経をいただきました。

天候に恵まれ、暖かい日差しの中、西野学長、吉川動物研究センター長をはじめ教職員、また例年より多くの学生が次々と焼香をし、動物の冥福を祈りました。

秋のオープンキャンパス開催

11月4日（土）に秋のオープンキャンパスを開催しました。

今回、高校2、3年生を中心に、昨年を7名上回る190名の参加者があり、無事盛会裏に終えることができました。

半日のスケジュールで、愛学館のA31講義室での「学長挨拶」「大学紹介」「在学生の話」の後、「研究室見学」、「相談会」を実施しました。「在学生の話」では3年次生の畑 裕基さんに大学生活、クラブ活動等の話をいただきました。参加者からは、在学生の生の声を聞いて、「実際の大学生活などについて話が聞けて良かった」「知りたいことが詳しく聞けてよかった」などの感想が多く寄せられ、とても好評でした。

「研究室見学」は愛学館の5階、6階の各研究室で行なわれ、参加者からは、「実際に研究室を見学できて、雰囲気分かって良かった」「初めて見る設備ばかりでおもしろかった」などの感想をいただきました。愛学館食堂では、「相談会」を実施し、多数の高校生及び付添者にご参加いただき、入試制度、カリキュラム、学校生活等について相談があり、受験生の真剣な姿が印象的でした。

今後ともオープンキャンパスをより一層充実していきたいと思いますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いします。（入試課）



オープンキャンパス「大学紹介」の様子



オープンキャンパス「在学生の話」の様子



オープンキャンパス「相談会」の様子

人 事

退職

2006. 11. 27付

薬品物理化学教室

教 授 舟崎 紀昭

京 薬 会 だ よ り

<卒業教育講座>

今回から、募集人員を500名とし、愛学ホールとA21講義室を連携してマルチメディア講義を行い好評を博しました。

また、受講者からは、『「メタボリックシンドローム」や「病態から見た薬物治療」等々興味深い講義が多くあって良かった』等の意見が寄せられました。

<公開講座>

谷口教授の「私たちもいずれ認知症になる？」の講演には、約200名の参加者があり、高齢化社会となった我が国における認知症への関心度の高さの一端がみられました。

毎年行っている「体組成測定（体内脂肪、血圧、血流状態等）」や「循環機能測定」等にも大勢の人がつめかけ好評を博しました。

<京薬会支部総会>

今年度は18支部で開催されました。希望された8支部では、認知症・感染症・メタボリックシンドローム・カバの汗などについてミニ講義が行われ、京都支部では、特別講演として、元日航機長であり戦闘機「隼」のパイロットであった紅雲亭飛僧（塚越朝紀）氏による『特攻悠久隊：光山文博（昭16. 12卒）悲話』の講談が行われました。